

技 術 資 料
技 資 第 1 2 7 号 A
66～154 kV CV ケーブルの
プーリングアイ及び端末キャップについて

2025 年 5 月

一般社団法人 日本電線工業会
電力用電線・ケーブル専門委員会
送電用ケーブル小委員会

本技術資料の使用に関して

- ・ 本技術資料は、一般社団法人日本電線工業会が著作権を保有しています。
- ・ 内容の一部又は全部を一般社団法人日本電線工業会の承諾を得ることなく複製，転載，転用することを禁止します。
- ・ 本技術資料に記載されている情報等の使用に関して，第三者が所有する知的財産権その他の権利に対する保証，実施，使用を許諾するものではありません。
- ・ 本技術資料に掲載されている情報等の使用に起因する損害，第三者所有の権利に対する侵害に関して，一切の責任は負いません。
- ・ 本技術資料の使用による，いかなる損害も責任を負うものではありません。

1 まえがき

本資料は、66～154 kV CV ケーブルのプーリングアイ及び端末キャップの構造例などについてまとめたものである。

2 プーリングアイの概要

プーリングアイは、ケーブル布設の際にケーブル引き入れを容易にするために導体に取り付ける治具である。主にドラムに巻かれたケーブルの巻き終わり先端部に取り付けられるが、布設ルートによっては、ケーブルの両端に取り付けられることもある。

管路布設の場合は、試験棒通しの前にワイヤーブラシ、ウエスによる管路内の清掃を行うとともに、プーリングアイの寸法についても注意が必要である。

3 管路布設における注意点

3.1 ジャムレシオ

単心ケーブルの場合は、延線中に管路内で3本のケーブルが1列に並びケーブル相互が圧縮され、引き入れが不可能となる場合がある。これを回避するためには、管路内径とケーブル外径の比がジャムレシオ（2.85～3.15）とならないように考慮する必要がある。

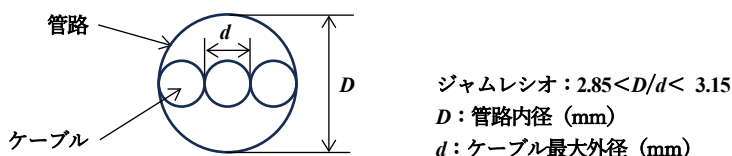


図1-ジャムレシオ

3.2 プーリングアイの寸法

プーリングアイの寸法は、管路の直線部及び曲がり部の条件に応じてそれぞれ検討する必要がある。

管路の直線部においては、プーリングアイの公差を考慮した最大外径が、**図2**に示す式を満たすようにする必要がある。なお、防水処理部がプーリングアイの外径以上となる場合もあるため、この点にも注意する必要がある。

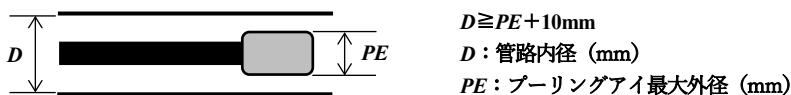


図2-管路直線部における検討

管路の曲がり部においては、プーリングアイの通過可否を**図3**に示す式によって検討する必要がある。